

2012年へのカウントダウン

ケビン・トデッシー A. R. E. 会長 (Kevin J. Todeschi Executive Director and CEO)

☆

近年、ますます多くの人がマヤ・カレンダーの終わりである2012年について尋ね、それが何を意味するのかに関心を持っています。

少なくとも紀元前600年にまで遡るマヤ・カレンダーには様々なバージョンが存在していて解釈も色々ですが、ある説明によるならば、カレンダーそのものが2012年12月21日で終わりになっているということです。

その事実が、次のような疑問を引き起こしています。

マヤ人たちは、私たちが知らない何かを知っていたのだろうか。

この世は終わりに向かっており、最後には終わってしまうのだろうか。

これはある時代の終わりを意味するのだろうか。

もしあなたがこの話を聞いたことがないとしても、知るのは時間の問題だと思います。

これこそが、エドガー・ケイシーが話していたあの話題なのでしょうか。

結論として、“2012年”という実際の年号についてリーディングには言及されていません。

しかしリーディングは、私たちがみずがめ座の時代に移行することについて、またその時代の変遷がどのようなものであるかについての情報を提供しています。

リーディングは、この時代の特徴は“浄化”(purity)という言葉で簡潔に記述されるだろう(1602-3)と言っています。

私たちが2012年12月22日(マヤ・カレンダーが終わる翌日)に精神的に目覚めて、「あら大変、私たちは浄化の時代に入ったわ」と考えるわけではないと指摘しておくことも大事でしょう。

時代はむしろ緩やかに変化するのです。

人々が一、二世経ってから振り返って、最終的に「やっぱり本当の変化が、2012年の終わりごろに起こり始めたようですね」ということになるかも知れません。

心に留めておくべきもう一つの重要な因子は、おそらく、2012年12月はあっという間に過ぎ去り、多くの人々が“何も起こらなかった”と納得するだろうということです。

12月22日の世界は、12月21日と全く同じように見えるかもしれません。

しかし、エドガー・ケイシーのリーディングは、実際には、かなり大きく違っている可能性を示唆しています。

事実ケイシーはこのことを、この新しい時代の責任を本当に引き受け、現実に行動に移し始める人たちのみが、「自分たちに起こりつつあることに気づくようになるだろう」と言っています。

リーディングでは、みずがめ座の時代は、浄化に加えて、各個人が他のすべての人々に対しても責任があることを理解する点で、結局は一つのグローバル化の時代であると示唆しています。

大事なことです、私たちがこの事実に気づくようになったときに、集団としての私たちの歴史は一時代を画するようになるのです。

国家は、自国以外の国やそこに住んでいる人々に対する自分たちの責任を理解することでしょう。

ケイシー・リーディングに含まれる概念の一つでは、結局のところ、地球に住んでいる誰もが兄弟であり、姉妹であるということです。

そして、この事実を意図して実現することが、次の時代に約束されていることの一つなのです。

エドガー・ケイシー・リーディングがグローバル化と浄化に加えて語っていることは、この時代においてスピリチュアルな意識が、各個人が直接〈神〉と気持ちを通じ合えるほど高いレベルにまで到達するだろうということです。

未来についてのこのような約束事と私たちの現状とには、いまだ大きな隔たりがあります。

時代の変わり目には過渡期が存在するものですから、地球上が平和であることや人が全てに善意を抱くことを、すぐには期待できません。

一時的には、後退することも知っておく必要があると思います。

国家や人々の間には、相変わらず難問が存在すると思いますが、その状態は徐々に変化するでしょう。

なぜなら、浄化、グローバル化、そして個人が神と直接につながることを実現するというみずがめ座の時代の約束こそは、私たちの共通の運命だからです。

2012年のその日が近づくとつれて、地上に天国が実現するという非現実的な期待から、悲観的な終末預言まで、さまざまなありとあらゆる話題を耳にしたいと思います。

しかし、エドガー・ケイシーのリーディングには、そのどちらについての記述もありません。

そうではなくて、私たちは異なった時代へのゆっくりした変遷を経験しようとしています。

この推移において私たちは、「平和と覚醒の新しい時代」に具現化させたいと願うことを、実際に自分たちの生活に適用して、具現化する必要があります。

さもなければ、私たちが「平和と覚醒の新しい時代」を実際に体験することはないでしょう。

この目的に向かう際に、宗教的な背景や精神的な傾向に関係なく、あらゆる人々が共通の理想を共有できる、とケイシーの資料は主張しています。

その理想とは、私たちには一人一人の才能や理解力の限りにおいて神を愛し、お互いに愛し合い、勿論自分自身をも愛することが必ず出来る、というシンプルなものです。

私たちが日常生活に実際にこの理想を適用しようとして、信念、希望、忍耐、寛容、辛抱強さ、そして愛という霊的な果実を収穫する方向に向かって行くことを、ケイシーは促しているだけにも思われます。

以上が2012年および「新しい時代」は、結局どんなものであろうかという問いに対する結論です。

<2009年5、6月号より>